

# 学友会ニュース

No.286

発行日：令和8年10月25日

発行：芦屋川カレッジ学友会

<https://ac-gakuyukai.com>



一般公開

## 2026

# 学友会秋の美術展

11.5 (木) ~ 9 (月)

9:00~17:00

初日は13:00から

最終日は15:00まで

市民センター 301 & 302 室

絵画（油彩画・水彩画・日本画・水墨画）  
写真・書・工芸（陶器・彫刻）

主催：芦屋川カレッジ学友会・芦屋市・芦屋市教育委員

## 奈良・興福寺を知る(3)

## 運慶「無著・世親像」— 人を彫るまなざし

若い日の運慶は、工房で木肌に触れながら、そこに潜む“心”を探るように鑿（のみ）を進めていた。「仏を彫るとは、人を彫ることだ」。そう語ったと伝えられる運慶は、像の内側に宿る生命を捉えようとしていた。円成寺大日如来像の制作を通じて、運慶は初めて“木の中の鼓動”を感じ取り、仏師としての覚醒を迎えることになる。

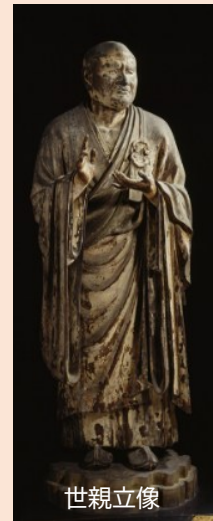
晩年、円熟した運慶は再び木の前に座し、長い沈黙の後、無著・世親像の制作に取りかかった。その沈黙は、南都焼討で焼け落ちた興福寺を見つめた日から続く、深い祈りの時間でもあった。

「無著（むじゃく）は、深い慈悲を湛えた老年の相として」

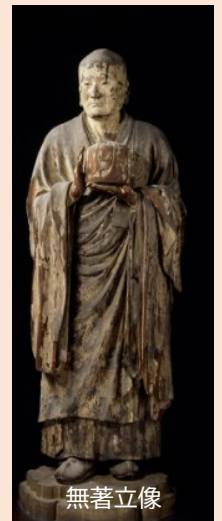
「世親（せしん）は、理を求め続けた壮年の相として」

鑿が進むたびに木の中から人が立ち上がる。無著像の伏し目がちな眼差しは、焼失した興福寺を前にした運慶自身の心情を映し、世親像の遠くを見る眼差しは、復興後の興福寺の未来を見据えるようである。

二像は、運慶が「祈りの再生」を託した肖像彫刻であり、興福寺復興の精神的象徴となった。



世親立像



無著立像

## 隧道展示

9.15  
~  
11.14

36期  
34期



猫シリーズ  
ペートーベン

中村 智恵子



猫シリーズ  
黒船屋



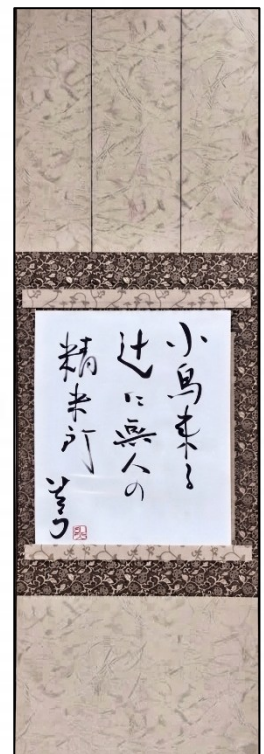
藤本 睦美



猫シリーズ  
モナ・リザ



猫シリーズ  
真珠の耳飾りの少女



俳句 堀一郎

## 学友会 40 周年 記念演奏会 報告

10月4日、ルナ・ホールにて学友会創立40周年を記念して、学友会とのコラボレーションで芦屋フィルハーモニー管弦楽団の第13回定期演奏会が開催されました。華やかなファンファーレで幕を開け、シベリウス「カレリア組曲」「フィンランディア」、ブラームス「交響曲第4番」が演奏され、会場は重厚なオーケストラの響きに包まれました。終曲後には学友会から指揮者に花束を贈呈。アンコールではエルガーの「威風堂々」が披露され、フィナーレは、舞台の合唱メンバーと会場の皆さんがオーケストラの伴奏に合わせて「芦屋川カレッジソング」を合唱、40周年の節目をともに祝う記念の演奏会となりました。参加者は一般の方を含めて405名でした。

